

1	(1) 1 4 8 9	(2) 1 1 4 4	(3) 2 3 0	(4) 2 0 4
	(5) 1 1 4 8	(6) 1 5 3 7	(7) 1 0 5 9	(8) 2 4 1 0
	(9) $\frac{63}{89}$	(10) ㊶ 2 (L)	㊷ 6 6 0 (mL)	(11) 5 9 8 (m)
	(12) 7 6 0 0 (円)	(13) 金 (曜日)	(10)完答)	

2	(1) 2 0 0 円	(2) 7 冊	(3) 6 冊
---	-------------	---------	---------

3	(1) 6 0 (個)	(2) 1 1 2 (個)	(3) 9 6 個
---	-------------	---------------	-----------

4	(1) 1 4 0 cm	(2) 2 2 4 cm	(3) 3 倍
---	--------------	--------------	---------

5	(1) 6 まい	(2) 5 通り	(3) 1 0 通り
---	----------	----------	------------

(配点) 各4点×25

1

- (7)  $587 + \square = 1646$   
 $\square = 1646 - 587 = 1059$
- (8)  $\square - 813 = 1597$   
 $\square = 1597 + 813 = 2410$
- (10)  $4 \text{ L } 3 \text{ dL} - \textcircled{7} \text{ L } \textcircled{1} \text{ mL} = 1 \text{ L } 640 \text{ mL}$   
 $\textcircled{7} \text{ L } \textcircled{1} \text{ mL} = 4 \text{ L } 300 \text{ mL} - 1 \text{ L } 640 \text{ mL}$   
 $= 2 \text{ L } 660 \text{ mL}$
- (11)  $2 \text{ km } 128 \text{ m} - \square \text{ m} + 347000 \text{ cm} = 5 \text{ km}$   
 $\square \text{ m} = 2128 \text{ m} + 3470 \text{ m} - 5000 \text{ m}$   
 $= 598 \text{ m}$
- (12)  $8000 \div (3 + 1) = 2000 \text{ (円)} \cdots \text{あとの B 君}$   
 $2000 \times 3 = 6000 \text{ (円)} \cdots \text{あとの A 君}$   
 よって、 $6000 + 1600 = 7600 \text{ (円)}$
- (13) 9月10日は8月1日から数えると、 $31 + 10 = 41 \text{ (日目)}$   
 よって、8月41日から7日ずつひいていく。  
 $8/34$ ,  $8/27$ ,  $8/20$ が日曜日と分かる。  
 $8/18$ は日曜日の2日前なので、金曜日。

2

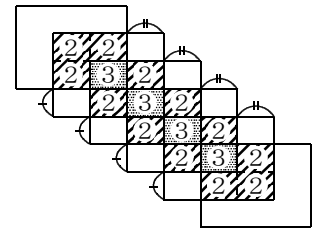
- (1) お弁当1個とお茶1本の合計金額は、  
 $570 + 130 = 700 \text{ (円)}$   $1000 \times 3 - 700 \times 4 = 200 \text{ (円)}$
- (2)  $1000 \times 4 - 350 \times 6 - 200 \times 5 = 900 \text{ (円)} \cdots \text{残金}$   
 $900 \div 120 = 7 \text{ (冊)}$  あまり60(円) よって、7冊。
- (3) 560円の本の冊数が440円の本の冊数の2倍になるので、  
 560円の本2冊と440円の本1冊をセットで考えると、  
 1つのセットで、 $560 \times 2 + 440 \times 1 = 1560 \text{ (円)}$   
 $5000 \div 1560 = 3 \text{ (セット)}$  あまり320(円)なので、  
 560円の本は、 $3 \times 2 = 6 \text{ (冊)}$

3

- (1) 残りのAを入れるのに、 $90 \div 9 = 10 \text{ (箱)}$ 必要。  
 10箱入れるのにBはあと、 $6 \times 10 = 60 \text{ (個)}$ 必要。
- (2) 残りのAを入れるのに、 $126 \div 9 = 14 \text{ (箱)}$ 必要。  
 14箱入れるのにBはあと、 $8 \times 14 = 112 \text{ (個)}$ 必要。
- (3) (1)(2)ともに、1つの箱にAは9個ずつ入れるので、  
 Aをすべて入れるのに必要な箱の数は同じ。  
 このとき、Bをすべての箱の中に入れたとき、  
 必要なBの個数の差は、 $112 - 60 = 52 \text{ (個)}$   
 1つの箱に入れるBの個数の差は、 $8 - 6 = 2 \text{ (個)}$   
 よって、Aをすべて入れるのに必要な箱の数は、  
 $52 \div 2 = 26 \text{ (箱)}$   
 よって、Bの個数は、 $6 \times (26 - 10) = 96 \text{ (個)}$

4

- (1) 太線で囲まれた図形において、  
 たて向きの長さは、 $18 + 6 \times (3 - 1) = 30 \text{ (cm)}$   
 横向き長さは、 $24 + 8 \times (3 - 1) = 40 \text{ (cm)}$   
 よって、太線部分の長さは、 $(30 + 40) \times 2 = 140 \text{ (cm)}$
- (2) 太線で囲まれた図形において、  
 たて向きの長さは、 $18 + 6 \times (6 - 1) = 48 \text{ (cm)}$   
 横向き長さは、 $24 + 8 \times (6 - 1) = 64 \text{ (cm)}$   
 よって、太線部分の長さは、 $(48 + 64) \times 2 = 224 \text{ (cm)}$
- (3) 6まいの長方形の紙をはりあわせた図形の重なり状況は、右の図のようになる。  
 よって、2まいだけ重なっている場所の広さは、3まい重なっている場所の広さの、 $12 \div 4 = 3 \text{ (倍)}$



5

- (1) 1回目→ $4 - 1 = 3$  (まい) 兄がとる。  
 2回目→ $5 - 3 = 2$  (まい) 弟がとる。  
 3回目→ $6 - 3 = 3$  (まい) 兄がとる。  
 兄がとったコインのまい数は、全部で $3 + 3 = 6$  (まい)
- (2) 1回目→ $6 - 2 = 4$  (まい) 弟がとる。  
 引き分けになるためには、2回目、3回目で兄がとるコインのまい数は、弟のとるコインのまい数より4まい多くなるといけない。  
 $\textcircled{7} = 1$  のとき、 $\textcircled{1}$  にあてはまる数はない。  
 $\textcircled{7} = 2$  のとき、 $\textcircled{1} = 6$  のとき引き分ける。  
 $\textcircled{7} = 3$  のとき、 $\textcircled{1} = 5$  のとき引き分ける。  
 $\textcircled{7} = 4$  のとき、 $\textcircled{1} = 4$  のとき引き分ける。  
 $\textcircled{7} = 5$  のとき、 $\textcircled{1} = 3$  のとき引き分ける。  
 $\textcircled{7} = 6$  のとき、 $\textcircled{1} = 2$  のとき引き分ける。  
 よって、全部で5通り。
- (3) 1回目と2回目は、弟は負けか引き分けしかない。  
 よって、3回目で弟は勝つか引き分けしかない。  
 このとき、3回目の弟のさいころの目は3か4か5か6。  
 弟の3回目3のとき、弟の1回目と2回目は、  
 (1回目, 2回目) = (6, 6) のとき引き分ける。  
 弟の3回目4のとき、弟の1回目と2回目は、  
 (1回目, 2回目) = (5, 6) (6, 5) のとき引き分ける。  
 弟の3回目5のとき、弟の1回目と2回目は、  
 (1回目, 2回目) = (4, 6) (5, 5) (6, 4) のとき引き分ける。  
 弟の3回目6のとき、弟の1回目と2回目は、  
 (1回目, 2回目) = (3, 6) (4, 5) (5, 4) (6, 3) のとき引き分ける。  
 よって、全部で $1 + 2 + 3 + 4 = 10 \text{ (通り)}$